

[002] 九州大学極低温実験室だより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/11017>

出版情報：九州大学極低温実験室だより．2，2001-06．九州大学理学部極低温実験室
バージョン：
権利関係：

「九州大学物性科学研究センター」構想の中核として

理学部極低温実験室運営委員長 網代芳民
大学院理学研究院物理学部門

平素は理学部極低温実験室の運営にご理解とご支援を頂き有難うございます。昨年度、「極低温実験室だより」の新たなる発刊に際して「極低温実験室」の現状をご説明申し上げましたが、ひきつづいてその後の経過をご報告申し上げます。

極低温実験室では平成8年以来、将来計画として全学的な寒剤供給を円滑に進めるための全学共同利用の「極低温科学センター」設置をめざしておりましたが、九州大学での大学院大学としての重点化の完了や新キャンパスへの移転の具体化と合わせて、昨年5月に日本学術会議物研連物性物理専門委員会が対外報告「物性研究拠点整備計画の具体化に向けて」において九州地区物性研究拠点整備を勧告したのを機に、昨年8月以来「極低温科学センター」設置構想を発展させた「九州大学物性科学研究センター」設置計画の中核的施設として参画し、極低温施設の充実に努める事をめざしております。

「九州大学物性科学研究センター」の設置目的は、急速にその発展が重要視されてきた複雑物性、新しい物性発現機構の解明に不可欠な極限物性、新物質の開発に直接寄与するナノ構造物性を3大柱とする学際的かつ融合的な教育研究のネットワークを既存の極低温実験室、超高压電子顕微鏡室を中核施設として学内に構築し、新時代の要求に応えうる新しい物性科学を創生すると同時に、九州地区物性研究拠点として最新の設備と技術の共同利用体制を整備し、次世代の人材育成、内外の研究者との交流の活性化等を図ることにあります。極低温実験室は極限物性分野の中核施設として本計画に参画し、センターでの共同研究や交流を通じて学際的領域の発展に大いに寄与すると同時に、物性科学のみならず諸分野の研究にとってますます重要になる学内の極低温寒剤の安定供給と研究支援サービスの飛躍的な向上を目指す所存であります。このように、極低温実験室が本計画ではたすべき役割はきわめて重大なものがああります。皆様方の温かい御理解とご協力をお願い申し上げます。

平成14年度概算要求の成否は現時点で明かではありませんが、センターの実現は容易なものではありません。しかしながら、将来計画の立案を通して研究者の意識改革、とりわけ若い研究者の主体的な取り組みが確実に進んで来ているのは喜ばしいかぎりであります。極限物性分野の将来計画を立案する一助として、理学部極低温実験室が将来、全学の寒剤供給センターとしてより有効的に機能していくために学内研究の動向をよりの確に把握し、合わせて研究者の相互交流を深めるために、昨年2回開催された「極限環境科学研究セミナー」や本誌の発行、極低温実験室の広報活動などが着実に次代を担う若い研究者が中心になって進められています。こうした努力が実を結ぶことを期待して居ります。

今後とも、皆様方のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。